

審査の観点及び審査総評

【審査の観点】

- (1) 研究の意図が明確で、主題が適切なものであるか。
- (2) 研究の対象が明確であるか。
- (3) 研究の計画及び内容が適切であるか。
- (4) 論旨が一貫しており、説得力があるか。
- (5) 必要な資料が精選され、整えられているか。
- (6) 結論の導き方は適切であるか。
- (7) 今後の実践に生かす手だてを講じているか。

【総 評】

全体で39本の応募がなされ、震災後では最も多い数となった。多忙化解消が求められる中、多くの先生方、学校が熱い思いをもって研究に取り組んでいることは称賛に値する。

今年度は、現代的な課題に着目し、新学習指導要領を授業等においてどのように実現していくのか試行錯誤し、答えを見出そうと努力している取組が多く見られた。

特に、共同研究では、学校全体で共通理解を深め、同一方向を向いて研究を進めていることがよく分かるものとなった。学校経営や教育課程を研究の対象としていることも、求められている教育課題解決のために重要な視点であり、評価できる。

今後は、研究主題を概念的な言葉ではなく具体的な言葉で表現すること、一般的に使われている言葉であってもきちんと本研究での意味を明らかにすることが重要である。

また、研究主題・副主題を大枠で捉えているケースが散見し、研究の実際との乖離が見られたり、検証し切れていなかったりすると言えるため、整理して論じることが必要である。研究主題を実現した時の子どもの姿、目指す子どもの姿を、具体を明らかにした上で、子どもの事実や変容をより丁寧に見取り、解釈していくなど、アンケートなどのデータだけに頼らない研究を進めていってほしい。